

閉会の挨拶

国際交流学部長 本間 慎

今日は、遅くまで熱心に討議いただきまして誠に有難うございました。

国際交流学部には、山之内先生や武者小路先生のような優れた先生方が多くいて、研究ばかりでなく、教育にもたいへん熱心に取り組んでおります。

その教育効果は着実にあらわれておりまして、今年、先ほどの、国連がどうなるかというような話がありましたけれども、国連の一機関であります世界食糧機構（WFP）に、学部卒業で二人、難関を突破しました。これは、皆さんご存じのように、国連というところはマスターを出なければ入れないところなんです。それをみごとに、初めて、フェリスから学部卒で二人合格いたしました。これは特記すべきことだというふうに思っております。

それから、JICAに一人合格しております。

そういうふうに着々と世界にも羽ばたけるような女性が育ちつつありますし、地域に根ざした活動というんでしょうか、そういうたくましい女性も育ちつつあるということを報告したいと思っております。

それから、企業への就職も、国際交流学部の就職率はたいへんよろしゅうございます。自立し、自分でものごとを考えることのできる責任感の強い女性を企業も望んでいると思っております。

二一世紀は、グローバリゼーションの中で地域を活性化する、そしてきちんとした考えを持つような女性
が、あるいは人材が二一世紀の大学では要求されている。それをフェリスでは先取りしているというふう
にぼくは思えてならないのです。

それでももう一つの宣伝は、先ほどから大学院は男女共学であると申しました。ここにいらっしやる多くの
男性の方も、フェリスは私たちには関係ないやと思わないで、ぜひ心ある人は、学部はだめですが、大学院
のほうはぜひお目にとどめておいていただきたいというふうに思います。年齢制限はべつにございません。

それからもう一つは、春学期のオープンカレッジの資料がお手元にあるかと思いますが、ご参考になさ
いまして、ぜひ聴講したいという方がございましたら申し出ていただきたいと思えます。地域とともに、地域
の文化を育てることに力を入れてゆきたいと思えますので、私たちの気持ちをくんでいただければという
ふうに思っております。

時間を三〇分オーバーいたしました。遅くまでいろいろ熱心なご討論をいただきました。どうもありが
とうございます。また次回にも大勢集まっていたきますようお願いして閉会のご挨拶にかえます。どうもあ
りがとうございました。(拍手)